

文化・芸術

〈名画の扉〉

「松本竣介「街」と昭和モダン」から

1923年の関東大震災後、昭和に入る常生活と自然との接点になり、洋画家にとっても、絵の題材となりました。郊外の家の庭は日常生活と自然との接点になり、洋画家にとっても、絵の題材となりました。木村荘八は東京・日本橋に生まれ、画家を志して白馬会の葵橋の洋画研究所で学び、岸田劉生と出会いました。12年には青年画家たちとヒュウサン会の結成に参加。15年には劉生を中心に草土社を結成しました。春陽会に招かれて以降、会員として会の発展に尽く

1923年の関東大震災後、昭和に入る常生活と自然との接点になり、洋画家にとっても、絵の題材となりました。郊外の家の庭は日常生活と自然との接点になり、洋画家にとっても、絵の題材となりました。木村荘八は東京・日本橋に生まれ、画家を志して白馬会の葵橋の洋画研究所で学び、岸田劉生と出会いました。12年には青年画家たちとヒュウサン会の結成に参加。15年には劉生を中心に草土社を結成しました。春陽会に招かれて以降、会員として会の発展に尽く

(大谷)

「朝顔」

1939年、油彩、カンバス
60・7センチ×80・8センチ



木村荘八 (1893～1958年)